



発行日：令和4年11月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第50回海部会WGを開催しました！

第50回海部会WGでは、8月に実施した公開講座について振り返りと討論を行いました。また、ゴミの問題・海と人との絆再生について、話題提供と話し合いを行いました。

日時：令和4年10月19日（水） 14:00～16:30
場所：西尾市役所会議棟2階 第4会議室
参加人数：25名（内オンライン参加4名） *事務局を含む



◆主な会議内容

1 公開講座「豊かな海の栄養源 されいな海は豊かな海か？」の振り返り・討論



8月20日に実施した海部会主催の公開講座は、参加者140名（Zoom参加127名・会場参加13名）と好評のうちに終了しました。アンケートでは、公開講座への多くの感想や意見をいただきました。会議では、公開講座で提起された海の栄養や浅場・干潟の問題に関する課題や今後の展開、外部への情報発信等について話し合いました。

2 ゴミの問題・海と人との絆再生について



(1) 奈佐の浜プロジェクトの答志島合宿について

NPO法人地域の未来・志援センター 三ツ松氏、愛知・川の会 近藤氏により、奈佐の浜プロジェクトの背景や答志島合宿の様子について報告していただきました。

- ・10月8～9日に「22世紀奈佐の浜プロジェクト学生会」が答志島合宿を行った。東海3県のゴミが答志島に流れ着くという問題を知ろうということで、2012年から続けている答志島でのゴミ清掃のプロジェクトである。
- ・学生が活動の最前線の方々の所に行って話しを聞いて交流する活動を支援している。昨年は山部会に協力していただいて根羽村にて林業を学ぶ合宿を行った。
- ・コロナの影響で3年ぶりの答志島での合宿となった。伊勢湾流域全体のゴミの何分の一かが答志島の奈佐の浜に来る。同時に、その状況が豊かな海の漁場をつくっている。それをみんなで見て、伊勢湾の現実を知ってもらう。
- ・海岸清掃には約200人が参加。海岸清掃のあと、鳥羽市で、森・里・海をつなぐフォーラムで学生が発表した。

(2) solobonの活動紹介 海洋プラスチックを利活用したハンドメイドアクセサリ

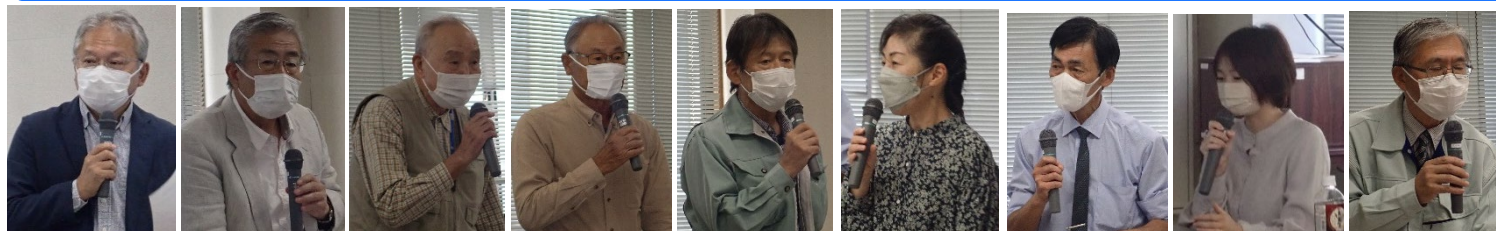
sobolonの山崎氏より、海洋プラスチックを使ったアクセサリの製作、活動等について説明していただきました。

- ・「可愛い地球を守る」をコンセプトに、海洋プラスチックジュエリーを作っている。ゴミである海洋プラスチックをジュエリーとして新しいアイテムに生まれ変わらせて販売するというをやっている。
- ・2019年に立ち上げ、2022年からは仕事として成り立つようビジネス展開を進めている。
- ・海洋プラスチックの回収のため、月1回くらい愛知県で海岸清掃を行っている。海の現状を伝えながら、自分たちで拾った素材でモノづくりを行っている。素材となるのはマイクロプラスチックや薄いプラスチックなど。
- ・販売形態としては百貨店やイベントへの出店。オンラインショップでの販売も行っている。販売と並行して、環境を知ってもらう、考えてもらうことを目的に、子供向けの環境教育や工作などのワークショップを行っている。

(3) 海岸清掃、干潟の海ゴミ・マイクロプラスチック例

矢作川環境技術研究会の野田氏より、豊川河口の六条干潟周辺での海岸清掃の様子と漂着ゴミに含まれるマイクロプラスチックの状況について報告していただきました。

- ・毎年、六条干潟での海岸清掃、生き物調査に参加している。海岸に打ち上げられた海ゴミの中には、多くのマイクロプラスチックが含まれており、生物が生息するところにも多くが散らばっていることが確認できた。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●公開講座「豊かな海の栄養源 きれいな海は豊かな海か？」の振り返り・討論

- ・「森は海の恋人」ではなく「森はN・Pを取り合うライバル」という話しに驚いた。(洲崎)
- ▶ 「森は海の恋人」というのは間違っていない。N・Pは農業地域を含む都市部からの濃度が大きく減っている。森は微量な栄養素を供給するという面で「森は海の恋人」というのは間違っていないと思う。(鈴木)
- ▶ 海は山や川がなくてはダメ。海が一番山や川を大事にしている。海の恋人は山や川だと思う。(石川)
- ・海部会の中だけで海の問題を議論していても何も変わらない。公開講座でここにいない人に発信することは重要と思う。それを議論する場として流域圏懇談会は非常に大事だと思う。(近藤)
- ・海の問題は伊勢湾全体を含めて考えなければいけない。そのためにも公開講座は有意義であったと思う。(近藤)
- ・漁業者以外にも三河湾を利用・保全したいという人はいる。いろんな人の意見を取り入れていく必要がある。(野田)
- ・シリカにも目を向けていただきたい。また、海の深場の問題についても議論してほしい。(井上)
- ・伊勢・三河湾の生物量が少なくなったのは栄養不足が原因だろうと思っている。海で困っている漁業者は、明日獲れなければ来年は漁業を辞めると言う人が何十人もいる。(鈴木)
- ・貧酸素水塊が一番発達した1980年代は魚やアサリは十分獲れていた。栄養負荷を下げてても貧酸素水塊はいっこうに解消していない。これは場の問題で、浅場・干潟が埋立で消失したことが原因と考えている。(鈴木)
- ▶ 今の窒素の流入量が1960年あたりとあまり変わらないということは、場が大きく変化したことも原因となっているのかと思う。(青木)
- ▶ 三河湾のような浅場・干潟が広がっている海で、1970~80年代にかけて2700haの浅場・干潟を失った。港湾整備と埋立で5000ha以上の浅場・干潟を失っている。そこから赤潮が発生するようになった。(鈴木)
- ▶ 栄養塩については、下水から出す量の議論に併せて、場の回復についても議論する必要があると思う。(近藤)
- ▶ 護岸は砂浜を全部埋めてしまうので環境によくない。反射波の問題もある。(石川)
- ・下水道の関係者からのコメントで「今までやっていた下水道は一体何だったのか」というのがあった。そういう意味でも、陸域に向かってすごく発信できているなと感じた。(青木)
- ・Youtubeを視聴した方々に、海の栄養についてどれくらい理解していただけたかが気になっている。(石田)
- ▶ データに基づいて話しが進んでいたのも、非常にわかりやすかったと思う(青木)
- ▶ Youtubeで視聴したが、とてもわかりやすかった。3回目の公開講座は大成功だと思う。(沖)
- ・山・川・海の連携という点で、矢作川流域圏懇談会に関わらせていただけてよかったと思った。(沖)

●奈佐の浜プロジェクトの答志島合宿について

- ・学生部会では、流域のつながりの可視化、情報共有、学び合いなどをやっている。訪れる地域の人たちと向かい合って交流する。参加者を固定せず、外への広がり、多世代交流を目標に活動している。(三ツ松)
- ・まず自分たちが考える。こういうのを地道にやって社会に巣立っていただけるとよいと思う。(近藤)

●sobolonの活動紹介 海洋プラスチックを利用したハンドメイドアクセサリー

- ・ポジティブなやり方で環境活動ができればということで、「可愛い×環境活動」という視点で関心を広げていこうと思い活動を始めた。その広がりへの仕掛けとして、海洋プラスチックジュエリーがあると思う。(山崎)
- ・一見価値がない、捨てるしかない海ゴミでも、そこに価値を持たせることでいろんな可能性が見えてくる。(山崎)
- ▶ かわいらしいグッズ。これで海洋プラスチックを知ったり、活動をするようになることがあると思う。(洲崎)
- ▶ 環境問題だけを見つめると、楽しくない、不平不満のぶつけ合いになってしまうことが多々ある。原点に立ち返って、人の行動や関心には楽しさが必要であると思った。(鈴木)
- ▶ 行政側なので、深刻な問題を、深刻な雰囲気の中で議論することが多いが、こういう違う価値観、違う視点でPRしていただくというのは大事かと思う。(山路)
- ・海洋プラスチックジュエリーの展開の中で、海の栄養不足など他の問題も合わせてプロモートしてほしい。(鈴木)
- ・豊かな海の色、きれいな海の色とかを意識してグッズとして見える化していく工夫もあるかと思った。(山路)
- ・拾ってきた海洋プラスチックで何かを作ってくださいなどオーダーメイドのようなことはやっているのか？(青木)
- ▶ ワークショップの中で、自分が拾ってきたゴミでジュエリーを作る体験の場を設けている。(山崎)

今後の予定

■次回WG 海部会・川部会合同WG (日時) 令和4年11月22日(火) 10:00~17:00

場所: 鵜の首の掘削箇所・ヨシ原再生箇所・干潟造成箇所・西尾市文化会館(WG)

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 山路、建設専門官 宮本、技官 松田

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課(cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp)までお送りください。

